

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	野州市児童発達支援センター「にここ教室」		
○保護者評価実施期間	令和8年1月		～ 令和8年2月
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	62	(回答者数) 61
○従業者評価実施期間	令和8年1月		～ 令和8年2月
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	公設公営の事業所であるため、地域の保育園・こども園・幼稚園と併行利用をしている児については、園の先生と連携をとりながら支援を行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの所属している園へ訪問し、情報を交換する。 ・園の先生に療育の様子を見ていただき、園での支援の参考とさせていただく。 ・療育へのスーパーバイズを、園の先生にも一緒に受けていただくようにしている。 ・就園する際には、情報の引継ぎ書の作成を行っている。 	個別のケースに合わせて、園と連携をしながら、よりよい支援ができるようにしていく。
2	保護者の求めに応じて、個別の相談を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別での相談を通して、利用児だけではなく、きょうだい児のことや、家族のことを含めて相談を行い、必要な支援につなげている。 ・発達相談を定期的の実施し、成長の確認や、支援方法の検討を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悩みがあっても、保護者自身から伝えにくいこともあると考えられるため、日々のやりとりのなかで、相談のニーズがないかを各職員が気に掛けるようにしていく。
3	施設が新しく、よい環境で療育を行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の専門家の意見なども聞きながら、部屋のレイアウトや運動遊具の配置を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児にとってわかりやすい環境設定ができるよう、日々改善を行っていく。 ・運動遊具について、安全に考慮して設置する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援センターとして、地域の障害児通所支援事業所等と連携し、地域の児童発達支援の質の向上を行っていくこと。	児童発達支援事業所が増えてきており、それぞれの事業所との、情報共有の場が少ない。	令和7年度より、市の自立支援協議会で部会を立ち上げ、情報共有を行う機会を作った。今後も取組みを継続していく。
2	児童発達支援の経験が浅い職員が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・経験の長い職員から、スキルや知識の継承が難しい。 ・研修会等への参加時間の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のミーティングの場面で経験の長い職員の知識技能を共有できるようにしていく。 ・研修会に年間を通じて公平に参加できるように工夫する。
3			